

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.140

2011/07/25

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 保全活動には際限が無い！



砂防作業（11/07/16）



土砂を運搬する西浅井中生（11/07/16）

持ち上げられた土砂

森の保全活動は多種多様であり、その活動時期も自然のサイクルを考慮して行う必要があります。5月～6月には、ササユリの食害防止に労力を注ぎました。それが終わった段階で砂防作業が待ち受けていました。特に大型の台風6号来襲予報が明らかになってからは急ピッチの作業が続きました。幸い台風の直撃は避けられ「備えあれば・・・」でほっとしている状況です。来訪者の増加も手伝って観察コースの浸食が進み補修を行うには、麓から大量の土砂を持ち上げる必要があります。今回は、西浅井中学の陸上部員17名が炎天下この持ち上げに協力してくれました。こうした作業に加えて希少種の増殖作業・付属湿地の除草等が行われました。

一昨年播種したミヤコアザミの実生の生育が進み株間を空ける必要があり植え替えを実施すると



サワランの馴化

中井サワラン

中井氏

安藤サワラン

ともに、遮光ネットを設置。その後順調に活着している。サワランについても、寺田サワランを馴化して貰った株を中井氏が湿原へ植栽すべく持ってきて貰ったが、生育環境が異なるため暫く付属湿地で様子を観察することになっている。



ミヤコアザミの植え替えと遮光ネットの設置



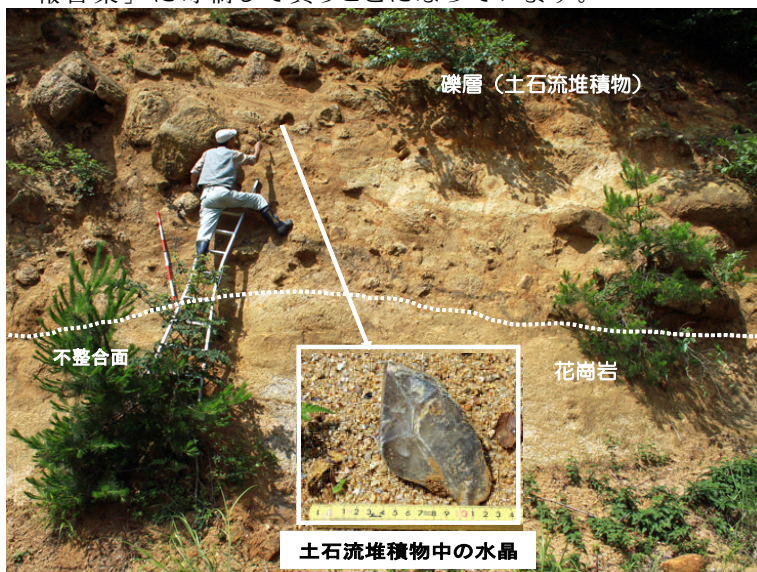
中央湿原の測量(11/06/23)

●クモの調査「山門水源の森」の各種生物調査は、未だ未だ手が付けられていないものが多い。そのうちの1つに「クモ」がある。今回伊藤会員の取り計らいで立命館大学名誉教授の吉田真先生とその仲間の方々が調査をして下さることになった。1回目の調査が7月12日に行われ、7名の会員も同行し勉強させて貰った。多くの個体を採集されこれから同定をされることになっている。種の同定もさることながら、会員にとってはその採集方法やクモの行動・網の張り方・網の採取の方法・クモの個体サイズの多様性等々「目から鱗」の1日でした。今後も季節を変えて調査をされる予定で、調査結果は「報告集」に寄稿して貰うことになっています。

しっかりした保全活動には、森の実態を出来る限り把握しておく必要がある。そのためには各種調査が欠かせない。これまで「四季の森」「北部湿原」の1/500地形図は完成しているものの、「中央湿原・南部湿原」の測量が出来ていなかった。5月から橋本技研のご協力で両方の現地測量が終了した。これらの地形図を基本に2010年代「植生図」(1990年代は既存)の作成にかかりたいものです。



クモ調査(11/07/12)

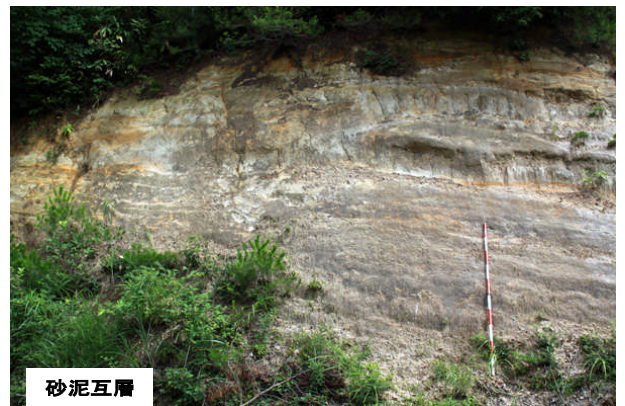


礫層(土石流堆積物)

不整合面

花崗岩

土石流堆積物中の水晶



砂泥互層

●地質調査とボーリング 日々変化する森の生物の現況を追うのに精一杯なのだが、基礎になる地形・地質調査も忘れてはならない。地形・地質についても未だ未だ分かっていないことが多い。森の基盤が花崗岩(5,700万年前)であることは間違いない。また湿原の堆積物(表面から約6m)に始良火山灰(25,000年前)が含まれていることも間違いない。しかし、この5,700万年前～25,000年前の間の「山門水源の森」周辺の地史は未だ明らかに出来ていない。この謎を解く手がかりが上の画像の「礫層」と「砂泥層」である可能性が高い。「礫層」の上部に「砂泥層」(県道の峠の地層と同時代と考えられる)が載っている。残念なことに2つの堆積物からは地質時代を特定する化石や火山灰が今のところ見つかっていない。今秋実施予定の湿原ボーリングでは、この謎が解ける可能性が高い。ところで上記の土石流堆積物の中から大きな水晶が見つかった。この水晶は、その下部にある花崗岩中に発達した晶洞に含まれていたものが土石流発生時に取り込まれたものである。したがってこの



オバボタル(11/07/03)

花崗岩でできた地表で2mを超える巨礫を押し流す大土石流が発生した当時の光景は凄まじいものであっただろう。ちなみに「四季の森」の土石流堆積物は、これよりずっと新しい時代のものである。

●今年はオバボタルが多い? 森にオバボタルが生息することは早い時期から確認されていたが、今年は観る機会が非常に多かった。「やまかど・森の楽舎」から



ブナの実(11/07/03)

●ブナの実順調に生育 「ブナの森」の解説板前方の樹が観察し易い